

女御いのりの僧どもこゑをあはせてのゝゑる、加持まゐり、うちまきしさわぐ、○中日ごろいみ
じかりつる御いのりのゑるしにや、いぬの時ばかりにいとたひらかにみこ○三禎子内親王むまれ
給ぬ、○中女におはしませば、うち○三にもいますこし、心ごとにおきてきこえさせ給、たゝおな
じくばとたれもおぼさるべし、されど春宮、○後のむまれ給へりしを、どのゝおまへ○藤原の御
はつむまごにて、榮花のはつはなときこえたるに、この御ことをばつばみ花とぞ聞えさすべか
める、○中九月にも成ぬれば、行幸の事けふあすの程にいそがせ給ふ事いみじ、宮の女房のなり
いみじきに、かんの殿○後威子○一條の御かた、どのゝうへ○道長の御かた、われもくゝどのゝゑるこ
といみじ、ふねのがくなどいみじくとゝのへさせ給へり、行幸の有さまみな例のさほうなれば、
かきつゝくまじ、大宮○一條の東宮○後のむまれさせ給へりし、のちの行幸、たゝそのまゝの有
さまなり、○中うへ○中御帳のうちにいらせ給て、月比の御物語など、心のどかに聞え給、かくう
つくしき人をいままで見ざりつる事、なほめでたき事なれど、この身のありさまこそくるしけ
れ、いみじく思人のともかくもおはせんを、どみにもみぬ事、いみじくくちをしかしなぞ萬に聞
えさせ給て、いざちごむかへてなかにふせて見ん、いみじくうつくしきものかな、この宮達のち
ごなりしをこそうつくしうみしかど、なほそれはれのありさまなり、これはここのほかにを
かしくみゆるは、かみのながければなめり、なほくゝとくゝいらせ給へ、うちにてはめのとい
るまじ、まろめのとにてはべらんなど聞えさせ給へば、ものぐるほしとてすこしわらはせ給、か
ゝる程に日もくれぬれば、上達部の御あそびになりぬるがいみじくなつかしくおもしろきに、
○中どみに出させ給まじき御けしきなれば、殿いらせ給て、よにいりはべりぬ、かばかりおもしろ
ろきあそびども御覽せんと申させ給へば、いとおもしろしときゝ侍り、がくのこゑはきくこそ
おもしろけれ、見るはをかしうやはある、さまゝのまひどもはみな見はべりぬといとのどか